

科目区分	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学 I
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1 単位(30 時間)	開講年次	1 年次
<p>目的: 人体の器官・臓器の形態・構造と機能、およびそれらが互いに作用しあう機構であることと日常生活のしくみについて理解し、科学的視点を踏まえた看護実践を行うための基礎的能力を養う。</p> <p>目標: 1 人体の構造を理解できる。 2 体の支持となる骨格・筋の構造と働きを理解できる。 3 人体の発生・成長と老化を理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 人体の構造と機能	10	1 人体とは 2 人体の素材としての細胞・組織 3 身体各部の名称 4 構造と機能からみた人体	
2 体の支持と運動	10	1 骨格とは 2 骨の連結 3 骨格筋 4 体幹・上肢・下肢・頭頸部の骨格と筋 5 筋の収縮	
3 人体の発生・成長と老化	9	1 男性生殖器 2 女性生殖器 3 受精と胎児の発生 4 成長と老化	
	1	試験	
評価方法	筆記試験		
テキスト	医学書院 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 廣川書店 カラースケッチブック解剖学 第4版 医学教育出版社 解剖トレーニングノート 第7版		
参考資料			
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。		
備考			

科目区分	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅱ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 人体の器官・臓器の形態・構造と機能、およびそれらが互いに作用しあう機構であることと日常生活行動のしくみについて理解し、科学的視点を踏まえた看護実践を行うための基礎的能力を養う。</p> <p>目標: 1 呼吸と血液の循環の構造と機能を理解できる。 2 内臓機能の調節を理解できる。 3 外部環境からの防御を理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 呼吸と血液の循環	15	1 呼吸器の構造 2 呼吸の機能 3 循環器系の構成 4 心臓の構造 5 心臓の拍出機能 6 末梢循環系の構造 7 血液の循環とその調節 8 リンパ管の構造とリンパの循環 9 血液の成分と機能	
2 内臓機能の調節	12	1 自律神経による調節 1) 自律神経系の構造 2) 自律神経の調整 2 内分泌系による調節 1) 内分泌系の構造 2) 全身の内分泌腺と内分泌細胞 3 ホルモン分泌の調節	
3 外部環境からの防御	2	1 皮膚の構造と機能 1) 皮膚の構造 2) 皮膚の機能 2 粘膜の構造と機能 1) 粘膜の構造 2) 粘膜の機能 3 生体の防御機構 1) 非特異的防御機構 2) 非特異的防御機構—免疫 4 体温とその調節 1) 熱産生のメカニズム 2) 体温調節のメカニズム	
	1	試験	
評価方法	筆記試験		
テキスト	医学書院 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 廣川書店 カラースケッチブック解剖学 第4版 医学教育出版社 解剖トレーニングノート 第7版 サイオ出版 ワークアウト解剖生理学ブック		

参考資料	
履修上の 留意事項	<p>予習・復習をして授業に臨むこと。 積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。</p>
備考	

科目区分	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅲ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 人体の器官・臓器の形態・構造と機能、およびそれらが互いに作用しあう機構であることと日常生活行動のしくみについて理解し、科学的視点を踏まえた看護実践を行うための基礎的能力を養う。</p> <p>目標: 1 栄養の消化と吸収の構造と機能を理解できる。 2 体液の調節と尿の生成を理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 栄養の消化と吸収	20	1 口・咽頭・食道の構造と機能 2 腹部消化管の構造と機能 3 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 4 腹膜の構造	
2 体液の調節と尿の生成	9	1 腎臓の構造と機能 1) 腎臓の構造 2) 腎臓の機能 (1) 尿生成のメカニズム (2) 体液の調整	
	1	試験	
評価方法	筆記試験		
テキスト	医学書院 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 廣川書店 カラースケッチブック解剖学 第4版 医学教育出版社 解剖トレーニングノート 第7版 サイオ出版 ワークアウト解剖生理ブック		
参考資料			
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。		
備考			

科目区分	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅳ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 人体の器官・臓器の形態・構造と機能、およびそれらが互いに作用しあう機構であることと日常生活行動のしくみについて理解し、科学的視点を踏まえた看護実践を行うための基礎的能力を養う。</p> <p>目標: 1 情報の受容と処理のメカニズムを理解できる。 2 日常生活行動における人体の生理的機能のメカニズムを理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 情報の受容と処理	24	1 神経系の構造と機能 1) 神経の構造 2) 神経伝達のメカニズム 2 脊髄と脳 1) 脊髄の構造と機能 2) 脳の構造と機能 3 脊髄神経と脳神経 1) 脊髄反射 2) 脳神経12対 4 脳の高次機能 1) 高次機能とは 2) 高次機能に関する脳の機能 5 運動機能と下行伝道路 6 感覚機能と上行伝道路 7 眼の構造と視覚 8 耳の構造と触覚・平衡覚 9 味覚器と味覚 10 嗅覚器と嗅覚 11 疼痛	
2 日常生活行動における人体の生理的機能のメカニズム	5	1 日常生活行動 1) 食事行動 2) 排泄行動 3) 移動	
	1	試験	
評価方法	筆記試験		
テキスト	医学書院 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学 廣川書店 カラースケッチブック解剖学 第4版 医学教育出版社 解剖トレーニングノート 第7版		
参考資料			
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。		
備考			

科目区分	専門基礎分野	授業科目	生化学
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1 単位(30 時間)	開講年次	1 年次
目的: 生体を構成する物質と生体内で営まれる生命現象を理解する。 目標: 1 生体を構成する化学物質の成分・構成が理解できる。 2 生体を構成する化学物質の化学反応が理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 生体の構成	14	1 生化学の基礎知識 1) 化学の基礎知識 2) 細胞の構造と機能 2 糖質 3 脂質 4 タンパク質 5 核酸 6 遺伝情報の仕組み	
2 生体内の物質代謝	15	1 消化と吸収 2 エネルギー代謝 3 代謝の仕組み 4 酵素反応 5 ホルモン・ビタミン	
	1	試験	
評価方法	筆記試験		
テキスト	医学書院 人体の構造と機能〔2〕 生化学		
参考資料			
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。		
備考			